

JAPS ニュース 第18号

日本建築写真家協会 JAPAN ARCHITECTURAL PHOTOGRAPHERS SOCIETY 会報
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-7 MARUZENビル1F (有)東京カラー工芸社内
TEL 03-5459-0160 FAX 03-3462-1511 E-mail japs@tcklab.co.jp http://www.japs.jp/

著作権保護に全力を

会長 小川泰祐

内外メーカーのフィルム製造からの撤退などもあり、建築写真の世界も急速にデジタル化が進みました。結果として、我々の最も重要な権利である「写真著作権」が曖昧になってきています。設計者及び施工業者からのデータ要求により、ほぼ権利放棄の状態と云っても良いと思われまます。データ納品の際は、どのような状況でも会員の個人個人が「著作権は写真家にある」事を先方に確認と主張を申し添える事を続けてください。たとえ口頭の約束でも有効です。

一方で、他の写真団体でも同様の傾向が見受けられますが、現場で会う若い写真家に協会への入会を進めていますが、必ず、入会後のメリットはありますかとの質問が返ってくる。データがらみの著作権への不平は語るが、入会してその事に対して一緒に戦うという意気込みは全く感じられません。個々の力を結集して少しずつでも改善して行きたいものです。一人一人が頑張らない事にはこの流れは止められません。圧力団体には程遠いとは

思いますが、まずは会員増に向け会員のご協力をお願いします。

日本建築写真家協会は平成26年には設立15周年を迎えます。昨年は設立10周年を期して作品集「日本・風土と建築」を刊行しました(4p参照)。この企画に対して各方面より批判、賛美などさまざまな言葉を頂きました。これらのメッセージを糧に15周年の企画を成功させたく思います。会員諸氏の提案を心待ちしています。

今年の総会は6月7日(金)に開催します。最近の総会には、デジタル化に伴い、従来の富士フィルム、コダックに加えてニコン、キヤノン両メーカー技術者もお招きし、ユーザーとの直接面談の機会を作っています。会員との質疑応答も年々盛り上がっています。皆様の出席を大いに期待しています。

また、会員の情報、ご意見など事務局にお寄せください。この厳しい時代の日本建築写真家協会の活動の参考にしたく思います。宜しくお願い致します。

日本建築写真家協会展 「光と空間」 —建築の美— Part 10

富士フィルム フォトサロン

東京展 2013年6月7日(金) ~ 6月13日(木)

大阪展 2013年9月27日(金) ~ 10月3日(木)

(新潟展 会場・会期未定)

その他の地域で開催希望の方は事務局へご連絡ください。
総会は東京展初日の6月7日(金)になります。

関西会員も加わり出展作品を確認

毎月行われている世話人会議へ東京近辺以外の会員にも参加していただくこと、去る3月8日の会議に交通費の一部補助し関西より川元斉会員、芥子富吉会員、玉城俊男会員、土面彰史会員の4名に参加いただきました。写真展へ出展する作品を一同で確認するとともに、個々の議題の報告・議論を交わしました。(3p世話人会報告欄参照)

撮影：渡辺重任



会員だより (123~129)

～ 会員の皆さんからの近況報告 ～

熊坂 弘 (神奈川県川崎市)

123

去年の秋のことです。ソーラー発電の取材の為徳島市国分町という所へ行きました。広告制作会社の方々と待ち合わせ時間よりもかなり早く到着してしまい、八十八ヶ所巡りのお寺の一つ井戸寺という寺院でブラブラと時間を潰していました。すると、「あんたも大変だねリストラかい？」と唐突に声を掛けてくる五十代後半位の遍路姿のオッサンが居ました。完璧に勘違いされているな！と思いつつも言い訳するのも面倒なので「まあ、そんな処ですね」と返事をしました。「最近多いんだよ、隣の観音寺でも五十代のリストラされた人が居たよ」と聞けばこの人も最近会社を辞めたらしく、「楽しく遍路旅をし

ている」とか言ってました。「お互い大変ですね」とか言って分かれたのですが、妙に元気なオッサンでした。

思えばここ数年不況の為、我々を取り巻く環境も大きく変わり、気が付くと私自身もしばらくブラブラとしていたのを思い出します。ようやく最近になって忙しさが戻りつつあるのですが、まだ本調子では有りません。毎月末の支払等、迫力の有る日が暫く続きそうです。

「あの遍路のオッサンどうしてるのだろう？」最近フト、あの開き直ったオッサンが、うらやましく思い出されます。

高井 潔 (東京都渋谷区)

124

日本写真保存センター(TEL03-3265-7451)をご存じですか？貴方が現在まで撮影してきた貴重で膨大なフィルムの劣化が進んで、将来使用不能になり、廃棄をされてしまうということを考えたことがありますか。こうした状況を憂えて、公益社団法人日本写真家協会(JPS)では、2006年3月から主に物故写真家の遺したフィルムの保存管理の一元化運動を進めています。

我々建築写真家の作品は、歴史的文化的に貴重なものでありながら、再利用されない事が多々あります。これは作品が何処にあるか、もちろん家族の処にあるでしょう。さて家族を見つ

けても、膨大な量のフィルムの中から探し出してもらうのはほとんど不可能とっていいでしょう。

たとえ取りだせたとしても、ビネガーシンドロームという白黒フィルムの劣化が進んで使えなくなるものも多くあります。高温多湿のわが国ではフィルムを長期に保存する環境が整っていないため、多くのフィルムが廃棄されているのが現状です。自分は大丈夫だと思われている方も、念のため調べてみて下さい。酢酸臭が少しでもしたら要注意です。

貴方の貴重な写真を廃棄処分されないうちに、保存管理の方法を相談しては如何ですか。

長岡 信也 (山形県山形市) 竣工写真を超える建築写真

125

本来、コピーライターであり、ディレクター、エディターを兼業し、そもそも写真を志していたわけではない私。現在もカメラマン専従ではなく、JAPSの末席に置いていただけていることすら、心苦しく気恥ずかしい思いです。

それでも、ディレクター、ライター目線でこそ捉えられる建築のありようを写真で伝えたい。言葉を変えれば、建築そのものの造形よりもそこに想像する暮らしや営みを対象に、作品ではなくメディアとしての写真をと心がけています。まだまだ撮

影数は少ないのですが、セルフ・プロジェクト『解体を待つ家』も、そんな取り組みのひとつです。

自己紹介文のようになっておりますついでに、一昨年は山形県内にある「最上三十三観音」、昨年は「置賜三十三観音」をテントを積んだ自転車で巡り満願。今年は「庄内三十三観音」を走破し、合わせて「出羽百観音」満願を目指しています。

歳は食っておりますが、新米です。皆様、よろしくお願ひいたします。

平賀 新治 (東京都港区)

126

近況報告をさせていただきます。(有)セカンドウインドとして、3名のカメラマンで仕事をさせて頂いております。建築写真的表现を、広告写真に融合して、「マンション広告」「不動産広告」の為の写真撮影をしています。又、撮影だけに留まらず、CGパース等のアングル提案にも、建築写真家ならではの見方がクライアントに評価されているようです。

ところで、安倍政権になり、公共事業のテコ入れなのか、消

費税の増税までの駆込み需要なのか分かりませんが、少し前よりは仕事量が増えてきたように思われます。(撮影予算は相変わらずですが。)小社の売上げは、昨年は良くありませんでした。

今期は多少でも良くなってもらえればと、期待しています。末筆になりましたが、皆様の益々の御発展、御多幸をお祈り申し上げます。

服部 寿徳 (東京都練馬区) 記念写真

127

昨年秋に知り合いの娘さんが結婚されました。新郎新婦に各々のご両親で計6名という実にシンプルな結婚式で、式の場所もあまり有名ではない神社でとのことでした。その話を聞いただけで何やら穏やかな情景が思い浮かびます。結婚式の記念写真も見せてもらいました。6名の集合写真です。

撮影は新婦の父上(アマチュア)で正面からストロボ1発、セルフタイマーで撮られたそうです。父上が撮る家族の記念写

真にややこしい技術のことはどうでもよく、被写体が全てです。全員が程よく自然体で撮られていて印象深い写真でした。

家族が撮る記念写真は記録としての写真の原点でしょうか？年月がたつほどにその価値が増すような気がします。撮影技術の教科書からは遠い位置かもしれませんが伝わる力は強いですね。

富田 治（東京都江東区） ----- 128

みなさま、おひさしぶりです。私も 50 代となりましたが、自分でも不思議なくらい元気です。

さて、両親の介護の関係上、長年住み慣れた北新宿から、江東区の東陽町という所に移って約 2 年になります。生まれてはじめての、いわゆる下町とゆう所での生活ですが、いまだに慣れません、新宿や吉祥寺などでの西東京での生活が長すぎたせいか、下町の持つ空気感のようなものに違和感すら覚えます。下町ライフに馴染むには、かなりの時間を必要としそうです。

さて話はいかがでしょうか、この生活環境の変化を期に、今まで頑なまでに拒否していた、デジタル写真なるものを男 50 にし

て始めて挑戦しました。いつまでも食わず嫌いではいけないと思い始めたデジタル写真ですが、とにかく 2 年近くやってみました。結果、たしかにデジタル写真は楽し簡単だし予想以上に便利なものでした。でもなぜか面白みに欠けるのです、そもそも撮影し終わった後の充実感というか、達成感みたいなものがまったくありません。やはりデジタル写真は、写真の本筋とはかなりずれてる気がします。というわけで結局また銀塩に戻りました。

さて気持ちのよい春もまぢか、今年もまた何か違った事をしようという計画中です。それでは失礼します。

小野 吉彦（東京都新宿区） ----- 129

私が子供の頃、父は写真とともに 8 ミリフィルムをよく撮ってくれました。近所の友達と遊ぶ様子、家族旅行、運動会など様々で、休日になると部屋のカーテンを閉め家族そろってよく上映を楽しんだものです。冷房のなかった夏には麦茶と団扇片手にカタカタと音をたてる映写機をみんなで囲み、時よりフィルムが詰まっては父がカバーを開け、小指でフィルムを進めながら上映していた姿を思い出します。幼稚園のころの私の一番のお気に入り、運動会でカラフルな風船が一斉に青空へ放たれる場面でした。

まだ 8 ミリは実家の押し入れにありますがビネガーシンドロームで一部は丸まってしまい、もう見られません。幸いビデオが普及した頃に VHS へ録画し直していたので現在も映像は残っています。今度は VHS の機器が壊れる前にデータ化したいと思っていますが、いまだに手を付けていません。

今は私が父親の立場で我が子をデジタルビデオで撮っていますが、こちらの整理も併せてそろそろ重い腰を上げて始めなければ、と思う今日この頃です。

● 日本建築写真家協会 世話人会報告 (71~75) ●

代表：高井 潔

会長：小川泰祐

副会長：堀内広治

総務：篠沢 裕・木寺安彦・山崎望輝・丸山 泰

事業：平井広行・山田新治郎・西出貴文・海老原一己

会計：三輪晃士・上岡弘和

広報：小野吉彦・渡辺重任・津布久智

仙台：横山博志 名古屋：車田 保

大阪：川元 斉 福岡：山本伸生

● 第 71 回 2012/11/16 カルフール貸会議室 18:00~20:00

(出席) 小川泰祐、小野吉彦、上岡弘和、高井 潔、中塚雅晴、平井広行、丸山 泰、山崎望輝、渡辺重任

○2013 年富士フォト写真展出席返事 13 名のみ。サイズ・出版料見直し検討。佐竹会員、新潟展開催希望。

○会員数 150 名を下まわった。

○15 周年企画、(案)10 周年の第 2 弾(会員の評判が良かった)。毎回テーマを決め、出版社も付けるか無か要検討。

○(案)隔年の富士フォト写真展を 10 回終了ののち、本の出版に変えてみはどうか。

○(案)ニコンを(仮)協力会員になってもらう。

● 第 72 回 2012/12/14 カルフール貸会議室 18:00~20:00

(出席) 海老原一己、小川泰祐、小野吉彦、篠澤 裕、高井 潔、堀内広治、三輪晃士

○2013 年富士フォト写真展初日 (6/7) に総会開催する。写真展出席希望者 23 名。返事なしの会員に分担で電話催促する。

(案) サイズを大全紙から全紙に変更し、出展料を 25,000 円へ変更する。

○15 周年で(案)写真集第 2 弾出版、タイトル・テーマ要検討、(案)参加費を取らないで購入してもらう。

○3/8 世話人会会議に関西から会員に来てもらう。

● 第 73 回 2013/01/25 新宿ライオン 19:00~21:00

(出席) 大橋富夫、小川泰祐、小野吉彦、篠澤 裕、高井 潔、田中 豊、津布久智、平井広行、堀内広治、丸山 泰、渡辺重任

○長年、世話人で活躍いただいた田中豊会員の青森転居に伴い、歓送会、新年会を兼ね世話人会をライオンで行った。

○富士フォト写真展の出展者数が少ない。

○3/8 世話人会の富士フォト出展作品確認時に関西会員に参加してもらう。

● 第 74 回 2013/02/15 カルフール貸会議室 18:00~20:00

(出席) 海老原一己、小川泰祐、小野吉彦、篠澤 裕、上岡弘和、中塚雅晴、堀内広治、丸山 泰、山崎望輝

○富士フォト写真展、参加者 63 名となる。出展料 25,000 円に変更。新入会員は割引を検討。

○3/8 世話会に関西から 2 名以上来てもらう。経費 5 万円を負担する。

○平成 6 年生まれの新入会員の選考をした。

○ニュース同封の際の書類には色を付ける。

○名簿、会員証を今年つくりかえる。

● 第 75 回 2013/03/08 カルフール貸会議室 18:00~20:00

(出席) 海老原一己、大橋富夫、小川泰祐、小野吉彦、上岡弘和、篠澤 裕、高井 潔、津布久智、中塚雅晴、平井広行、堀内広治、丸山 泰、三輪晃士、山崎望輝、山田新治郎、渡辺重任

(関西出席) 川元 斉、芥子富吉、玉城俊男、土面彰史

○富士フォト写真展の出展写真確認を行った。大阪展は 9 月か 10 月開催の予定。

○今後、大阪会合にも都合が合えば東京からも参加する。

○(案)ニュース編集、ホームページ管理に関西会員ではどうか。

○(案)大阪で総会をまた開催してみる。

○15 周年記念、内容とともに写真展か出版か検討。

○3 月中頃、事務局へキヤノンの開発担当が来訪予定。

販売は順調

『日本 風土と建築 日本建築写真家協会 創立10周年写真集』

鹿島出版会刊 2012年6月10日発行 1,800円＋税

昨年6月に出版した10周年写真集は、鹿島出版会からの報告によりますと、具体的な販売数は現在把握できていませんが、販売店からの追加問い合わせや、在庫を切らしている販売店もあるとのこと。

自主出版の写真集にしては順調な販売数の確保が出来ており、1年後の今年6月には具体的な数字を提示いただけるとのこと。



初版発行部数 (2012年6月10日発行) 1,000冊
当初 JAPS 事務局所有数 500冊 当初鹿島出版会所有数 500冊
会員へ販売・贈呈他 356冊
JAPS 事務局在庫数 144冊 (2013年3月28日現在)

掲示板

最新情報、詳細情報はホームページをご確認ください。



①



②



③



④



⑤



⑥

秋山 実 出版 ① 「マイクロスコープー浜野コレクションに見る顕微鏡の歩みー」

オーム社刊 2012年11月1日発行 4,500円＋税

大橋 富夫 写真展 ② 大橋富夫写真展 「東京70」

早稲田スコットホールギャラリー (東京都新宿区) 2013年1月17日～29日 (終了)

ナカサ&パートナーズ

展示会 ③ 「HOUSE VISION 2013 TOKYO EXHIBITION」

お台場・青海駅前特設会場 (東京都江東区) 2013年3月2日～24日 (終了)

新入会員

根本 健太郎 ④

志摩 大輔 ⑤

藤原 景太 ⑥

連絡先等変更

住所・連絡先等変更がありましたら、必ず事務局にご連絡ください。

八幡 輝幸

橋本 征親

事務局 TEL 03-5459-0160 FAX 03-3462-1511 E-mail japs@tcklab.co.jp